

佐々木校長から

山中校長へ

「私は二五歳で中学校の教壇に立ち、以来四六年二カ月、壇上よりお話するのはこれが最後であります。老齢でありますので理事長に退職希望を申し上げたところ、円満にご承諾下され、一〇月五日私の誕生日をもって辞任することになりました」

本校の第三代佐々木哲郎校長は、昭和八年の就任以来、二〇年を越える長いあいだ先頭に立って学校運営に力を尽くした功労者である。

その佐々木校長から、高齢のため七一歳の誕生日を期して退職したいという申し出がなされ、惜しまれつつもその希望がいられることになった。そして後任の第四代校長には、教務主任・山中順三の就任が決まった。

新旧校長の告別・就任式は、一〇月三〇日に行なわれた。勇退後、初の名誉校長の称号を贈られる佐々木哲郎は、壇上から感慨深く生徒に語りかけた。

「お別れするにあたってとくに申し上げたいのは、本校の創立者三田義正翁の創立の趣旨についてであります。昭和二年校旗制定の際述べられた言葉であります。一言にして申し上げますな

らば、本校設立の目的を、質実剛健の気風にみ

ちた学徒の養成にあると確言されたのです。こ

れは昭和六年第一回の卒業式にあたっても繰り

返されたことなのです。私も就任以来およばず

ながらこの趣旨を体してまいりましたが、故人

の遺志を継がれた現理事長も着々とその実現を

目指され、いまや六カ年の一貫教育による私学

として本校の誇りは年々高められている。諸君

はこの岩中精神をよく培ってもらいたい。山中

新校長は私とともに本校に就任し、幾多の困難

をつねに克服してこられた先生であり、いまや

私は安心して引退できます。今後は新校長を中

心にして、さらに刷新の実をあげることを望み

ます」

これに対して生徒代表が謝辞を述べ、全校生

徒の感謝の心のこもった記念品を名誉校長に贈



第四代校長
山中順三

呈した。

ついで後任の重責を担う山中新校長が所信を

明らかにした。

「私の言いたいことは、佐々木名誉校長の言葉に尽きる。もうひとつ、私は、本校は楽しい学校であってほしいと思う。全力を尽くしたのちの、高い楽しさを味わってほしい」

告別式は厳粛そのものの雰囲気のうち幕を閉じた。式終了後、惜別の情を抑えかねた全校生徒が校門前に二列の人垣をつくり、去りゆく佐々木前校長の姿をいつまでも見送った。

勇退後、佐々木名誉校長は悠々自適のなかにも学究を怠らない日々を送り、九〇歳を越えても読書の手をやすめなかつたという。昭和五六年六月一四日、名古屋にて逝去された。享年九

三歳。御骨は故郷花巻市の瑞興寺に納められて

いる。

佐々木校長の後を継いだ山中順三新校長は、昭和八年に慶応義塾大学英文科を卒業後たちちに本校に着任し、英語教師として、また寄宿舎の舎監として、つねに多くの生徒と接してきた。校長に就任したときまだ四五歳、ボードレールを論じ、佐藤春夫を激賞する学者タイプの若き指導者だった。英国流の質実剛健の気風を重んじ、生徒に繰り返し「石桜精神」を説いた。山中新校長のもとに、岩手中・高等学校は雄躍期を迎えるのである。